

# 市立旭川病院 医療連携NEWS



患者さん中心の医療を行い、市民から信頼される病院を目指します。

No. 8 2014 / 1 / 21

## 新年ごあいさつ

旭川市病院事業管理者

市立旭川病院 院長 青木 秀俊



新年あけましておめでとうございます。

新たな年の初めを迎え、皆さまには輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃より当院の医療連携にご配慮、ご理解いただきまして誠にありがとうございます。

さて、地域医療を取巻く環境は相変わらず厳しいものがありますが、そのような中であって、当院では昨年、病棟再編による診療機能の充実・効率化を図り、また、地域医療機関への訪問も行わせていただき、その紹介パンフレットも患者さんから大変好評をいただいております。

本年においては、1月に電子カルテの導入、4月には夜間小児一次救急のセンター化、9月には病院機能評価の受審（3回目）を予定するなど、今後とも地域の中で医療機能の充実に努めていきたいと考えているところであります。

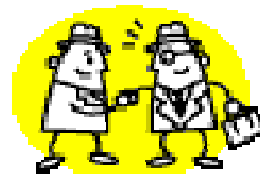
近年、地域医療連携の重要性が言われておりますが、患者さまが適切な時期に適切な診療を受けられることが大切であり、病院と診療所がそれぞれの役割を十分に果たすことができるよう地域の体制を整えて、より一層連携を深めることが必要と考えております。

当院も、その体制を支える柱の一つとして信頼されるよう努めてまいりますので今後ともよろしく願い申し上げます。

最後になりますが、皆さま方にとって2014年が素晴らしい1年であることをご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

### 《基本方針》

- 1 高度医療を担い、安全で質の高い医療を提供します。
- 2 地域の病院・診療所と連携し、地域医療の向上に努めます。
- 3 救急医療を担い、市民に安心な医療を提供します。
- 4 公共性を確保し、健全な病院経営に努めます。
- 5 教育研修を充実し、人材育成に努めます。



## 院内診療部門のご紹介

### 血液内科

当科は昭和 55 年に創設されて以来、旭川市内はもちろんのこと、道北圏一帯の血液疾患の診療にあたっています。入院ベッド数は43床で、無菌病室を6床有しています。診療範囲は血液疾患全般です（もちろん“疑い”の段階からも診ています）。

- 難血性の造血器悪性腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）に対しては造血幹細胞移植を積極的に取り入れています。
- 再発難治性の悪性リンパ腫には放射免疫療法も取り入れています。
- 日本血液学会認定施設、日本骨髄バンク認定施設、日本臍帯血バンク認定施設、日本輸血学会認定施設等の施設認定を取得しています。

【どうぞ、お気軽にご相談・ご紹介ください】

#### スタッフの紹介

柿木 康孝（昭和58年弘前大卒）

マラソンと囲碁が趣味。「走る棋士」と自称しています。日本内科学会認定医、日本血液学会専門医・指導医、日本輸血・細胞治療学会認定医、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医

千葉 広司（平成5年東海大卒）

“釣り”を愛してやまない先生です。日本内科学会認定医、日本血液学会専門医、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医

橋口 淳一（平成22年北大卒）

今、仕事に没頭しており、気力、体力ともに充実しています。1児のパパです。

石尾 崇（平成23年北大卒）

患者を診るセンスはなかなかのものがああります。自称“ジャン師”と言っています。



柿木 医師



千葉 医師



橋口 医師



石尾 医師

#### 血液内科外来担当表

月	火	水	木	金
千葉	柿木・※重松	千葉	柿木	橋口

※重松医師は週1回北大病院より外来診療に来ています。

# こんにちは！地域医療連携課です。

日頃、地域医療連携業務にご協力いただきありがとうございます。

当課は、地域の病院や診療所と密接につながっており、二人主治医制度（かかりつけ医と当院の医師の連携）推進などにより、地域完結型医療の実現に取り組んでいます。地域医療・看護・介護を担っている多職種との連携もますます重要となっており、今後も「顔の見える連携」を大切に活動していきたいと一同思いをひとつにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

以下は地域医療連携課の主な業務内容です。

## 1. 地域医療連携

病院や診療所との連携を深めることによって、急性期医療を必要とする患者さんが一人でも多く市立旭川病院をご利用いただけるように努力しております。

- ・ 地域医療機関から紹介された患者さんの診察や検査の予約受付
- ・ 紹介先の医療機関へ患者さんの診療結果等を報告
- ・ 登録医との連携や二人主治医制度のご案内
- ・ 高度医療機器（CT・MRI等）の共同利用の受付
- ・ 健康や病気に関する講演会等の開催



小坂 ・ 谷口 ・ 岡崎

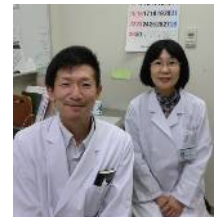
## 2. 医療相談

医療ソーシャルワーカーが、面談・電話にて相談をうけております。

- ・ 医療費や療養に関わる生活費等の経済的な問題
- ・ 療養中の心理的・社会的な問題について退院時における援助（転院施設入所等）
- ・ 介護保険制度・社会保障制度などについて
- ・ その他の相談



大月 MSW・星 MSW・丸山 MSW



龍野 PSW・浅田 PSW

## 3. 退院支援

患者さんの退院に向けて、安心して療養生活を送り退院していただけるよう専従の看護師が医療ソーシャルワーカーと連携し支援をしています。また、自宅への退院や転院・施設入所に向けた支援、退院先医療機関などとの連携窓口としての業務をおこなっております。

## 4. がん相談支援センター

患者さんやご家族の方からのがんに関する疑問や不安、悩みにお答えするため『がん相談支援センター』を開設しております

当院に通院・入院中の患者さん・ご家族の方に限らず、他院の患者さんやご家族の方、一般の方々からのご相談も受けております。遠慮なく、お気軽におたずねください。

また、がん相談支援センターではセカンドオピニオンの相談も受けております。

受付：月曜日～金曜日（祝祭日・年末年始の休診日を除く）

午前8：30～午後5：00

場所：市立旭川病院外来棟 1 階

TEL：（代）24-3181 「地域医療連携」（内線）：5370 「医療相談」（内線）：5302

「がん相談支援センター・退院支援」（内線）：5372



小野寺 NS・永草 NS・佐々木 NS

**胸部外科診療部長 宮武 司**

私は、平成5年12月から7ヶ月間と平成17年4月から今日までの約8年間、胸部外科に在籍しております。3歳の時から札幌に住み、札幌南高校を経て北大に入学、平成元年に卒業しました。

大学生時代は、フラテ山の会に所属し、小樽赤岩の岩の上でザイル確保をしながら海をながめているのが好きでした。医局

は、北大第2外科医局に入りました。その後、循環器外科医局が分局しましたので循環器外科に所属しています。

平成6年7月からハーバード大学関連病院ディーコネス病院（ベスイスラエル・ディーコネスメディカルセンター）で主に異種移植の研究を2年10ヶ月間行いました。

豚の心臓を人間に移植するのを目標に研究して、帰国後も後輩たちとその研究を続けたのですが、平成12年9月にオハイオ州にあるクリーブランドクリニックにクリニカルフェローとして行けることになり、研究は中断されました。異種間の拒絶反応を完全に抑えることが簡単ではなかったこと、人獣共通感染の可能性がいつまでもつきまとうこと、ES細胞やiPS細胞から心臓自体を作り出す方に未来があるという考えから、私の研究は挫折しています。

クリーブランドクリニックでは、あこがれのDr.Cosgrove（僧帽弁形成術）、Dr.Svensson（大動脈手術）らのもとで臨床研修を行いました。移植のローテーションもありました。これ程、手術前後で効果が明確な手術も稀だと思います。クリーブランドでは、朝4時起きで病院に向かい、朝7:00頃には回診も終わっていました。Dr.Cosgroveも朝早く病院に来られるためにその到着時に患者の病状を報告しなければならないのです。世界のDr.Cosgroveの日々の診療姿勢を思い出し、怠惰になりがちな自分を戒めています。また約20人いる世界各国からのフェローやレジデントと切磋琢磨できたのは良い経験だったと思います。

変な話ですが、私よりも食事を取るのが速い人達をこんなに見たのは初めてです。心臓術後の患者さんはだいたい3から5日で退院します。日本の学会発表で、通常の手術では2週間必要だった入院が1週間で退院できるようになったなどの報告がありますが、アメリカでは、ほとんどが3から5日で退院してしまうのですから、入院期間を比較した発表は信じないことにしています。

こんな日本の保険制度を財政が許す限り維持すべきだと思う一方、その保険制度を維持するためにも、我々も患者さんもホテルよりも安く泊まれる病院に甘えてはいけなと思っています。2年の研修後日本に帰り、大学、北海道大野病院、NTT札幌病院を経て旭川に来ました。

市立旭川病院は、クリーブランドクリニックには数では及びませんが、その成績と質は見劣りしていません。成績を維持しながら、どんどん新しい治療を取り入れる攻めの治療ができる科であつたら良いと思っています



## 胸部外科診療部長 吉本 公洋

九州の福岡県福岡市出身の“博どんもん”です。北海道と北大に憧れ、北海道大学医学部に進み、北海道の山々に登る。大学卒業後は九州での就職も頭をよぎるも北海道を去りがたく、またポリクリでの心臓手術に魅了され、北大第二外科の門を叩くこととなりました。当時は消化器外科、呼吸器外科、循環器外科のローテーシ

ョンがあり、入局後の三年間は道内の一般外科で手術のイロハを教わり、帰局後は大学病院集中治療室での連泊で、開心術後の術後管理を叩き込まれました。

その後、大学院でラットの心臓と格闘のすえ学位論文が完成、ようやく心臓手術の研修が手稲溪仁会病院心臓血管外科で始まりました。そこでは40数年前の市立旭川病院胸部外科開設のスタッフであられた酒井圭輔先生、本邦にIntegrated Myocardial Protectionを確立した岡本史之先生に開心術の手ほどきを受け、ひととおりの心臓手術の執刀をさせていただきました。

2000年にはドイツのフライブルグ大学病院心臓センターへ臨床留学の機会を得て、三年の間に心臓移植や補助人工の植え込みを含めて数多くの開心術の手術を経験することができました。無駄のない合理的な手術の組み立てを実感し、また異文化での生活につかることで、自分の考え方に広がりを持つたように思えます。

帰国後は大学病院と札幌市内の病院に勤務ののち、2005年4月より市立旭川病院胸部外科に勤務させていただくことになり現在に至っております。

当院胸部外科では、旭川はもとより道内の多くの先生から、患者様の紹介をいただいております。改めて御礼を申し上げます。おかげさまで忙しいながら充実した日々をおくらせていただいております。周術期合併症をなくし、退院時には術前より良い状態になれるように、一針入魂で臨む毎日であります。

今後とも諸先生方との連携を密にさせていただきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年12月の道内は、平年より高温で雨も多く記録的な小雪でしたが、年が明けるとやはり例年どおりの降雪と低温で推移し、少し運動不足気味ではないでしょうか。2月のソチオリンピックはじめ冬はウインタースポーツや旭川冬まつりなど、楽しいイベントがいっぱいですので、健康で安全に冬を楽しみましょう！

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

市立旭川病院 地域医療連携課

〒070-8610

旭川市金星町1丁目1番65号

TEL (0166) 24-3181

(内線5370)

FAX (0166) 26-0008

E-mail: renkei@city.asahikawa.hokkaido.jp